宮崎宮 本殿

支部たより

第 136 号

発　行　令和7年5月2日
発行人　一般社団法人 裘千家
同門会福岡県支部
〒810-0001 福岡市中央区天神4-2-36
天神第一ビル2階
電話 (092) 711-1603

「副支部長就任の挨拶」

宮崎宮 宮司　田村　邦明

この度、福岡県支部の副支部長を仰せつかりました田村でございます。何卒宜しくお願い申し上げます。

今から四百三十八年前の六月、度重なる戦乱に巻き込まれて荒れ果てた博多の町を再興すべく九州平定に赴かれ宮崎宮に本陣を置いた豊臣秀吉公は、京都から千利休居士を呼び寄せられ箱崎野点の大茶会を催しておられます。この茶会は和睦の標として執り行われたと言われ、利休居士は松の枝に雲龍の釜を鎖で吊し松葉を焚いて湯を沸かす「ふすべ茶」を供し、秀吉公は大変お喜びになったそうです。その場所は現在九州大学医学部構内にあり「利休釜掛けの松」と言い伝えられ、野点の茶会の起源として福岡市の史跡に指定されています。また、宮崎宮には千利休居士が奉納なさった燈籠があり、重要文化財に指定され「利休燈籠」とも呼ばれています。

斯様な歴史と伝統をお守りする役割からご縁を頂きまして今般、組織の活動に寄与させて頂く事と相成りました。

今年は昭和百年、終戦八十年の節目を迎えます。昨今の私達にとって近現代の象徴である海外のモノの見方や考え方が大きな影響を及ぼしている時代の流れの中で、先人の築き上げてきた経験知、経験則を、今を生き未来に繋げてゆく私達の責務として現代の日本においては茶道を始めとする「道」の付く生業を再認識して、病原菌を調える免疫のように心身の健康や清浄に努めて、お茶をお点てになる皆様方お一人お一人が利休居士のお心に副い、「朗らか」な世界を現出なさる事がこれからの世界平和への第一歩であると確信しています。

令和七年度 福岡県支部総会並びに一般講習会開催のお知らせ

個別でのハガキの案内はございませんので当日はそのまま会場へお越しください。
基本、着物でのご参加をお願いいたします。

◆日時　六月十六日(月)　開場　午前九時　開会　午前十時

◆会場　福岡国際会議場　福岡市博多区石城町二-一
TEL　〇九二-二六二-四一一一
・最寄りバス停「国際会議場サンパレス前」
「国際センターサンパレス前」

◆講師　岡﨑 英雄 宗匠　講話「惺斎の話」

◆呈茶　九時より九時五十分　及び　昼休み中
・昼食は各自御用意ください（会場内にて弁当を販売）

◆一般講習会　実技「花所望」・「長緒」・「薄茶」
総会終了後に一般講習会を行います。同門会福岡県支部の全ての会員が受講対象者となっておりますので奮って御参加下さい。

※歴代家元冊子のご案内
令和七年度支部総会では、本部講師より「惺斎の話」があります。
本シリーズは、歴代家元の事績を訪ねる同門会員必携の教材として、これまで『利休』『少庵』『元伯』『江岑』『随流』『覚々』『如心』『啐啄』『了々』『吸江』『碌々』が刊行されており、今後も継続して刊行されます。
支部総会の当日、会場にて『惺斎』を頒布致します。ぜひお求めください。
【一冊二千二百円(税込)です】

本年度支部功労者表彰

■支部功労者（敬称略）

河野明美　田代良子

お茶会のご案内

◆筥崎宮放生会茶会

日　時　令和七年九月十六日（火）
受　付　午前九時～午後一時
場　所　筥崎宮
会　費　千五百円

◆宗像大社献茶式

日　時　令和七年十月十七日（金）
受　付　時間未定
場　所　出光席　宗像大社儀式殿
　　支部席　宗像大社清明殿
　　点心席　場所未定

◆福岡市民大茶会

日　時　令和七年十一月三日（月・祝）
受　付　午前九時
会　場　護国神社
　　大濠公園内日本庭園
茶　券　二千二百円（薄茶二席）

お茶会申し込みのご案内

上記お茶会申し込みの方は、左記要領にて申し込みください。

申込方法　官製はがき（記入例参照）
申込先　〒八一〇-〇〇〇一
　　福岡市中央区天神四-二-三六
　　天神第一ビル二階
　　表千家同門会福岡県支部
申込期限　筥崎宮放生会茶会
　　令和七年八月十五日（金）必着
　　宗像大社県茶会
　　令和七年九月十七日（水）必着
　　福岡市民大茶会
　　令和七年十月三日（金）必着

〈記入例〉

○○○○茶会
申込書

支部名
会員番号
氏名（フリガナ）
住所　〒
電話番号
必要枚数

※その他、ご不明な点等ございましたら、表千家同門会福岡県支部までお問合せください。

受講地変更について

支部総会・一般講習会は、原則、所属支部での参加ですが、日程等の都合で所属支部での受講ができない場合は、他支部への受講地変更ができます。

受講地変更を希望される方は、福岡県支部へ受講希望地開催日の一ヶ月前までに左記の要項を明記の上、ハガキにてお申し出ください。ただし、変更先支部の都合により参加がかなわないことがあります。支部総会と同日開催の場合、支部総会は傍聴のみとなります。

〈記入例〉

受講地変更希望

変更する講習会：一般
希望地：大阪
開催日：11／10
所属支部・会員番号：京都1234
氏名：北山美子
住所　〒603-0072
　　京都市上京区百々町536
電話番号：075-432-2195

※最新情報は、表千家ホームページをご覧下さい。

宛先　〒八一〇-〇〇〇一
　　福岡市中央区天神四-二-三六
　　天神第一ビル二階
　　表千家同門会福岡県支部

九州茶道館

初釜

御家元御一行様歓迎会

京都お家元、東京出張所に続き、恒例の初釜が一月二十五日(土)、二十六日(日)の両日、九州茶道館で行われました。

お家元よりお出ましくださいましたのは、三木町宣行宗匠、渡辺潤様、小笹晃様、熊倉岐晃様、森浩倫様、松本孝尋様の六名の方々です。

今年は天気がよく、久方振りに穏やかな初釜を迎えることができました。おかげさまにて県内や九州一円、また遠く愛知県からもご参会があり、二日間で二百四十三名のお客さまに来館をいただきました。

コロナ禍以降各服で練られていた濃茶も本来の姿に戻り、家元席では凛とした静寂の中、三木町宗匠がお茶を振舞われました。副席では北九州市の松本弘子氏が薄茶を担当なされ、お客様が新春を寿ぐ一服のお茶を笑顔で楽しまれている姿が印象的でした。

酒飯席においては福引も行われ、猶有斎宗匠直筆の大扇子、同じく宗匠直筆の短冊やお好みの干支染出服紗の当たり籤が出ると「ワッ」と歓声が室内に広がり、和やかな雰囲気の中に華やかな彩を添えていました。

また二十五日夜には、ホテルニューオータニ博多にて「御家元御一行様歓迎会」が催され、約九十名の方々にご参加をいただいて、懇親を深める有意義なひとときとなりました。

濃茶席(九畳敷)

濃茶席

聽鐘亭

掛物　今尾景年筆　日ノ出波ノ画
前二　カウネンキ写
書院二　鷹ヶ峯塗鶴竹硯箱　料紙二ノセテ

九畳敷

掛物　覚々斎筆一行　天下梅花主　碌々斎好表具　同箱書付
書院二　伏見焼　千支置物
花入　青竹尺八
花　結柳　曙椿
香合　吸江斎好梅の絵蛤香合　同在判
釜　表金五色檀紙釜敷シキテ　而妙斎好同筆松の絵瑞雲文字鋳込ミ丸　浄心作
炉縁　松喰鶴蒔絵真塗
金砂子桐紋腰風炉先屏風
青漆爪紅及台子
水指　染付　蓬莱山画　善五郎造
杓立　而妙斎好南鐐紅梅紋　皆具ノ内　浄益作
火箸　南鐐巳頭　清右衛門作
建水　而妙斎好南鐐紅梅紋　皆具ノ内　浄益作
蓋置　同右
茶入　信楽大福　覚々斎箱
袋　荒磯緞子
茶碗　吸江斎好小島台　同箱　旦入作
出帛紗　猶有斎好干支染　友湖作
茶杓　江岑作　共筒　銘　鶯
薄茶器　惺斎好金銀芽張柳蒔絵平棗　同箱　宗哲作
菓子器　網絵溜食籠
菓子　清薫　藤丸製
茶　猶有斎好楽寿の昔　柳桜園詰

酒飯席(花月楼写)

酒飯席(花月楼写)

薄茶席

主　松本宗弘

寄付

掛物　即中斎筆　同箱
　　金泥富士画替

花月楼写

掛物　即中斎一行　寿南　同箱
花入　桔梗花入　即中斎箱　覚入作
花　季のもの
香合　寿老人　猶有斎箱　覚入作
　　帛紗シキテ
釜　俵　初代寒雅作
　炉縁　古木梅　而妙斎在判　同箱　雅峯作
風炉先　切桐　而妙斎在判　同箱　奥村製
棚　袋棚　而妙斎在判　同箱　誠中斎作
水指　叩き朝鮮唐津　而妙斎箱　太郎在衛門作
茶器　留塗歌雪吹　久田家六世宗渓の歌
　　四代中村宗哲十二代極
　　戸田左近　木地師
茶碗　赤立鶴　即中斎箱　弘入作
　替　仁清井写　梅絵　即中斎箱　即全作
　　銘　初笑
茶杓　了々斎作　銘　朝日　即中斎箱
　　共筒茶杓
建水　交趾エフゴ建水　保全作
蓋置　鶴亀惺斎在判　同箱　弘入作
干菓子盆　羽子板　而妙斎在判　近左作
菓子器　肥後彦古瓢　碌々斎在判

茶　猶有斎好　清友の白　柳桜園詰
菓子　絵馬　笹詰　藤丸製
莨盆　粒足タバコ盆　而妙斎在判　近左作
火入　仁清写　松竹梅鶴亀　正全作
莨入　山中加賀茶通　碌々斎在判　同箱
煙管　南鐐筋　淨益作

松風楼写

掛物　双鶴　而妙斎自筆　同箱
脇二　宝珠　即全造

薄茶席(花月楼写)

茶道館月釜

令和六年十一月

席主　深野　千鶴子　氏
後見　森　　埻加史　宗匠
掛物　玉室和尚筆「四海而今清似鏡」

令和七年二月

席主　河東　正子　氏
後見　松本　英樹　宗匠
掛物　大綱和尚筆「松無古今色」

令和七年三月

席主　岡本　徹　氏
後見　菅田　行芳　宗匠
掛物　了々斎宗匠筆
「雪後始知松柏操事難方見丈夫心」

今後の茶道館行事予定

【令和七年度　月釜】

四月二十五日(金)
席主　髙木　満由美氏
後見　井上　順一　宗匠

五月二十五日(日)
席主　石原　美千代氏
後見　小笹　晃　宗匠

六月二十五日(水)
家元席　吉水　宗吾　宗匠
副席　瓜生　緑　氏

七月二十五日(金)
席主　藤嶋　泰行　氏
後見　菅田　浩行　宗匠

九月二十五日(木)
席主　天本　なほみ氏
後見　木村　雅基　宗匠

十月二十五日(土)
席主　永末　重徳　氏
後見　岡﨑　英雄　宗匠

十一月二十五日(火)
席主　古川　清子　氏
後見　貫名　義隆　宗匠

二月二十五日(水)
席主　関　和子　氏
後見　松原　正明　宗匠

三月二十五日(水)
席主　元松　まり子氏
後見　渡辺　潤　宗匠

【茶道館利休忌】

四月二十六日(土)
ご指導　井上　順一　宗匠

【即中斎宗匠を偲ぶ茶会】

八月二十九日(金)
席主　前原　景子　氏

【令和八年　茶道館初釜】

一月二十五日(日)・二十六日(月)
家元席　三木町　宣行　宗匠
左海　大　宗匠
森　埻加史　宗匠
木村　雅基　宗匠
郡　知久　宗匠
池嶋　謙一　様
内藤　宗隆　様
薄茶席　片桐　郁代　氏

学校茶道たより

行事報告

◆秋季学生茶会

令和六年十二月一日(日)、九州茶道館において筑後地区指導者による秋季学生茶会を催し、五十九校、四百六十九名の参加がありました。

今回は一席の人数を増やしたことにより多くの方に参加していただくことができました。

茶会では、和やかな雰囲気の中にも、お点前やお運びなど先生方の所作に学生たちの真剣な眼差しがありました。

また展観席では、炉・風炉の炭道具が並べられ、一つひとつについて、名称や使い方など分かりやすく丁寧に説明をしていただきました。現在、ほとんどの学校では消防法などの事情により電熱器による稽古で、はじめて見る炭道具の数々に学生たちの多くが身を乗り出して見入っておられ、「大変お勉強になりました」と退席されていかれました。

これからも学生の皆様に満足いただけるような魅力ある学生茶会の実施を目指して鋭意努力してまいりたいと存じます。

「学校茶道　秋季学生茶会」

（担当／筑後地区指導者会）

令和六年十二月一日(日)筑後地区の指導者会の学生茶会を開催致しました。

茶道館付近の紅葉が赤く綺麗に色づいていました。

この日は、四百六十九人出席されました。

本席では久し振りに食籠を使いました。学生さんに黒文字を使ってお菓子を取り出す事をしていただきました。食籠の蓋を開けて次の方にまわしてもらう。緊張しながらもまわしている様子を見ながらお稽古をされたと感じました。諸先生方のご指導ありがとうございました。

展覧席では、学生さんには馴染みの薄い炭の説明を致しました。炭にはそれぞれ名前があること、風炉と炉で使い分けること、羽箒のこと、お香のことなどを興味深く聞いている様子でした。

「お菓子も、お茶も美味しかったです。」と笑顔で帰っている姿を見て喜びを感じました。

最後に茶会に向けて、支部の先生方、茶道館の方には、いつも前準備で細部にわたり大変ご協力をいただきまして厚くお礼申し上げます。

又、当日は各世話人の先生方には遠方から朝早くお手伝いいただきました。青年部の方にもお手伝いいただきました。

滞りなく無事に茶会を終えることができましたのも、皆様のご協力とお力添えの賜物と思っております。大変お世話になりました。心より厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

◆筑豊地区　親子体験茶会

令和七年二月十六日(日)、直方市の歳時館で筑豊地区の親子体験茶会を開催しました。

すっきり晴れた穏やかな日となり、三十組百六名の方々に四席に分かれて楽しんでいただきました。

少し早い雛の設えでお迎えし、お雛様のお茶碗をはじめ雪洞の水指、菱餅の香合などが子どもたちの目を引いたようです。

まずはお茶会形式での一服でしたが、その間に座り方、お辞儀の仕方、お茶のいただき方など一通りのことは体験していただきました。

その後、各自茶筅を振ってお茶を点てる体験のスケジュールでした。

その折には家族単位で振出体験をしていただき、これが大好評で、茶室の外にまでにぎやかな声がこぼれておりました。

「お茶は点っていますか？」の問いかけに「まだまだです」と答える子どもの笑顔に迎えた私共も笑顔。

帰られる際には、歩き方やお辞儀の仕方が受付の時とはすっかり変わっていて、その変化にこちらが驚きを隠せませんでした。

「大人になったら表千家の門を叩いてくださいね」と心の中で呟きながらそんな皆さんを見送った一日でした。

◆北九州地区　親子体験茶会

令和七年三月九日(日)、暖かな春の日差しを感じる中、小倉城庭園にて十三家族四十四名の参加者をお迎えして行いました。

静かなお座敷で緊張した面持ちの子どもたちやご家族。正座での丁寧な挨拶の稽古をした後、先生の薄茶点前を見ながら美味しい主菓子と点出しの抹茶を頂き、その後抹茶を点てる体験をしました。

まず「ふりだし」という可愛い器に入った金平糖を取り出す事を先生方の指導の下体験しましたが、その様子は大人も子どもも楽しそうで笑みがこぼれていました。金平糖を頂きいよいよ抹茶を点てる体験。茶筅の振り方等の指導を受け自分の点てた抹茶を頂く顔は満足そうでした。最後は最高に上手くなったお辞儀で終了。「色が濃いから苦いと思ったけど甘味があって美味しかった。」「また来たい。」「茶道に興味が湧きました。」など嬉しい感想を残して帰られました。蒔いた種がいつの日か芽生えてくれる事を祈りながら私達も頑張りたいと思います。

お手伝い下さった先生方に心より感謝しております。

◆豊前地区　子ども体験茶会

令和七年三月十六日(日)行橋市中央公民館で子ども体験茶会を執り行いました。朝から雨模様でお客様の出足を心配していましたが十時開始の少しまえから晴れてきてほっとしました。例年になく気候が不順でお花も心配しましたが何とか準備できました。お陰様で大人四十四人子ども五十三人と沢山の方においでていただきました。

今年も、最初にお点前を見ていただき、その後お盆にお茶碗と茶筅をのせて渡し、運んだ方がそれぞれ指導してお茶を点ててもらい飲んでいただきました。その時に飲み方の指導もされ、皆さんとても楽しそうでした。小さなお客さんも自分で点てたお茶は美味しいと残すことなく飲んでいました。また、お茶を習いたいと言う方も出てきて、うれしい限りでした。準備したお菓子が不足するくらい盛況で、私達も疲れを忘れました。

例年、書家の先生から揮毫していただいた書を、来られた方々に持ち帰っていただき好評でした。

支部の皆さんのお手伝いもとても有り難く助かりました。感謝です。また、可愛いお雛様カードのプレゼントも、いただいた子どもたちは大喜びでした。

今後、若い世代に、少しでもお茶に興味を持ってもらえる機会になればと願っております。

本年度行事

◆学校茶道指導者会　総会

日時　令和七年四月二十七日(日)
　　十四時～(呈茶十三時～)
場所　クローバープラザ春日

◆春季学生茶会

期日　令和七年六月八日(日)
場所　九州茶道館
担当　豊前地区指導者会

◆【家元】学校茶道指導者研修会

期日　令和七年十一月二十二日(土)
場所　九州茶道館
※本研修会につきましては、表千家不審庵事務局発行の『礎』二十七号をご参照ください。

◆【家元】学校茶道研修会・秋季学生茶会

期日　令和七年十一月二十三日(日)
場所　九州茶道館
担当　中村学園大学
※学校茶道指導者会より学校及び指導者の方へ案内状を郵送いたします。申込みは、『礎』同様にハガキまたはQRコードからとなります。

学校紹介

◆福岡県立大学

私たち福岡県立大学茶道部は部員のほとんどが初心者ですが、講師の先生方の温かいご指導の下、週に一度のお稽古に励んでいます。

日々のお稽古では、先生が持ってきて下さったお茶やお菓子を楽しみ、先生方や先輩に見守っていただきながら茶道のお点前や作法、礼儀を学んでおります。いつも和やかな雰囲気で活動しています。

コロナ禍により中止せざるを得なかった毎年の学園祭での秋季茶会も二〇二三年から再開できました。最初は三年生の先輩一人しかいなかった茶道部も今では八人にまで増えました。秋季茶会では、お茶を始めてまだ半年も経っていない一年生も皆様の前でお点前をすることになり、部員全員が一丸となってお稽古に取り組みました。また、秋季茶会では全員着物を着てお点前をするため、そこに向けて着付けの先生に着物の着付けのお稽古もしていただいています。本番では緊張で手が震えてしまったり、直前までお点前の順番を確認したりと不安なことも多々ありましたが、お客様である先生の知人の方々や友人、家族等の温かい視線に見守られながら無事に秋季茶会を成功させることができました。

まだまだ経験不足で至らぬ点が多く、普段のお稽古でも失敗してしまうこともたくさんありますが、これからも先生方のお力を借り、いずれ入部してくる新入部員たちと共に部員一同精一杯励んでいきたいと思います。

茶道部部長　日野　朱音

◆中村学園大学

中村学園大学・中村学園大学短期大学部、表千家茶道部の部員は十五名で、大学内の学友会館の茶室にて活動しています。外部より表千家教授の先生方二名を招聘し、大学の顧問の先生と一緒に、温かいご指導をいただきながらお稽古に励んでいます。稽古では、美しい振る舞いや礼儀作法を身に着けることができます。

また、日本の伝統文化「侘び寂び」を学びながら、根底にあるおもてなしの精神も身についているように感じます。

十一月の学園祭では、「霜月茶会」と題し、日頃のお稽古の成果を披露すると共に、お客様にお茶とお菓子をお出ししながら、まさに一期一会の交流をしています。今年度の霜月茶会では、「立礼」で実施しました。使う部屋や道具が例年と異なり、また、作法も異なるため、とても不安に感じていました。

しかし、役割分担をしながら、各自部員が自分にできることを考え積極的に動いたことで、準備から完成までが有意義な時間となりました。

また、先生方のご指導で「七事式」のように花入れに花を生けて、茶席を華やかに彩ることもできました。「食の中村」の主菓子はこだわりをもち、太宰府の藤丸氏にお願いをして、利休好みの銀杏の形をした麩の焼き「公孫樹」を作っていただきました。当日は、多くのお客様にご参加いただき、部員一同、感慨深い茶会となりました。

太宰府の九州茶道館で春季・秋季と開催される学生茶会には、先生方や部員と積極的に参加しています。今年度の秋季学生茶会では、なんと、席持ち校の順番となり、驚嘆しているところです。高校時代から茶道を続け、部長として今回の茶会の席を担当させていただくことは、大変貴重な機会であると感じています。未熟ではありますが、当日のお茶会に参加していただく学生の皆さんに楽しんでいただけるお茶会ができるように、部員と協力しながら、おもてなしの心をもってお稽古に励んでいるところです。

茶道部部長　大澤　真子

青年部たより

行事報告

◆福岡県青年部　交流茶会

日時　令和七年二月二十三日(日)
場所　九州茶道館

当日は、降雪予報が出るほど寒いなか、九十五名ものお客様にお越しいただきましたこと、心より御礼申し上げます。

世界を襲ったコロナパンデミックから五年が経ちました。「集まる」ことが非日常となってしまったコロナ禍で青年部活動においても、なかなか行事が出来ず、これまでのように部員同士またOBの方々と定期的に集い語らう交流の場が失われてしまいました。福岡県青年部が発足して四十五年。代々の先輩方が築き上げてこられた青年部を十五期、そして次の期にも継承していこうという思いから、この度、九州茶道館にて交流茶会を執り行う運びとなりました。

企画、準備の段階から先輩方と顔を合わせ、直接ご指導を頂きながら当日の茶会を迎えました。薄茶席では、これまで青年部を支えてくださった方やOBの方々より寄贈いただきましたお道具を中心に、過去に催した「鎌倉彫教室」や「作陶教室」で部員が製作した鎌倉彫の香合、高取焼、土師焼のお茶碗等をお出しして、青年部らしいお席になったと思います。

副席として設けた甘味席では、OBである花月堂寿永さんの小豆使用し、現役役員が長く、縁(円)を繋ぐ"思いを込めて丸餅を一つ一つ焼き入れてぜんざいとしてお出ししました。「青年部らしい楽しいお席だったよ」「お餅上手に焼けていたよ」等あたたかいお言葉をいただき大変嬉しく思いました。

この五年間で茶道を取り巻く環境は大きく変わってしまいましたが、OBの方々が築き上げてこられたお陰で今の青年部活動が出来ていることに、改めて感謝の気持ちを抱くと共に、新しい世代へと繋ぐ取り組みも行っていこうと決心する一日となりました。

当日ご参会いただいた皆様、そしていつも青年部を温かく見守ってくださる先生方、OBの方々へ心より感謝申し上げます。

最後になりましたが、九州茶道館という大変貴重な場所を使用させていただき、この場を借りて御礼申し上げます。

薄茶席　三井　太
甘味席　内海　優

青年部報告

令和六年度(実績)

令和六年五月十二日(日)
令和六年度青年部総会
場所　麻生大浦荘／四十二名

令和六年七月十三日(土)
博多祇園山笠協賛茶会
場所　櫛田神社社務所／百七十三名

令和六年八月十七日(土)・十八日(日)
第三十八回
表千家九州地区青年部連絡協議会
場所　小倉城庭園

令和七年二月二十三日(日)
福岡県青年部交流茶会
場所　九州茶道館／九十五名

行事予定

令和七年六月一日(日)
令和七年度青年部総会
場所　松風園

令和七年七月十三日(日)
博多祇園山笠協賛茶会
場所　櫛田神社

令和七年十一月八日(土)・九日(日)
全国大会青年部席
(北九州市門司区・山口県青年部との共催)

令和八年二月十五日(日)
九州合同茶会(佐賀県)

組世話人会議

十二月十四日(土)、九州茶道館において組世話人会議が開催され、今年は福岡県内五地区から五十三名の組世話人の皆様が出席されました。会場では茶道文化の伝統への敬意と共に一年間の御奉仕に対する感謝の意を込めて九畳敷にて呈茶でおもてなし致しました。

会議の内容は、例年通り本年度の締めくくりとして、まず支部から年間行事の開催状況を報告いたしました。続いて学校茶道指導者会、青年部、九州茶道館の各代表から、本年度を振り返っての行事報告と諸連絡があり、いずれも本年の事業が無事に遂行できたことについて安堵の表情で説明いたしました。

総括では、次年度には山口県支部と共同で関門海峡全国大会が開催される予定であることを報告して、引き続き組世話人の皆様の御協力を御願い致しました。また、本部の新しい施策として、各県支部と各青年部との融合、茶道を教える側の充実を目指す教授者制度の改正と、いずれも同門会活動の強化と会員の拡大を視野に入れた方向性を組世話人の皆様と共有いたしました。これらの取組は茶道が持つ深い精神性や歴史的意義を未来へつなぐ大切な架け橋となると確信しております。組世話人の皆様も熱心に報告を聞き入っておられる様子で、新しい試みにも御理解頂けたものと存じます。

本年度の行事が無事成功裡に終えられたこと、並びにその成果を踏まえた今後の展望の御共有について改めて感謝の意を表明致します。支部役員一同は引き続き伝統の継承と発展に努め、次世代への可能性を切り開いていく所存でございます。最後に来年も支部と組世話人との連携による御支援と御協力をお願いし、同門会会員皆様方の御健康と御活躍を祈念して散会となりました。

令和八年度『琵寿表彰』について

表千家同門会では、永年にわたり本会に在籍し、表千家茶道の発展に尽くしてこられた会員の功労を称え、琵寿をむかえられる方を対象に毎年「琵寿表彰」を行っております。

下記の条件に該当される方は、ご自身で同門会本部にお申し出ください。確認のうえ「琵寿表彰申請書」をお送りします。

一、昭和二十五年のお生まれで、同門会に継続して二十年以上在籍(平成十八年以前に入会)の方は、京都にて執り行われる「琵寿お祝いの会」にて表彰をうけることができます。当日参加がかなわない方は、支部総会で表彰されます。

二、昭和二十四年以前のお生まれで、同門会に継続して二十年以上在籍(平成十八年以前に入会)の方は支部総会の席上で、琵寿の表彰を行います。

※申し出方法…ハガキに所属支部、会員番号、住所、氏名を明記のうえ、「琵寿表彰申請書希望」とし、左記まで申請用紙を請求してください。申請書は秋頃に送ります。

※「琵寿表彰申請書」
受付期限　令和七年十二月末日

この期日を過ぎてからの申請は受付いたしかねますのでご注意ください。

※請求・問合せ先
表千家同門会　本部事務局「琵寿表彰」係
〒六〇二－〇〇七二　京都市上京区寺之内通堀川東入百々町五三六番地
電話〇七五－四三一－三二八一

資格者講習会

日　付　令和七年九月二十八日(日)
受　付　午前九時～
開　講　午前十時～午後三時予定
会　場　福岡国際会議場
家元講師　吉水　宗吾　宗匠　森　浩倫　様
実　技　「初炭」「茶カブキ」
講　義　当日配布する資料の解説
問合せ先　表千家同門会福岡県支部
電話〇九二―七一一―一六〇三

受講地変更について

日程等の都合で所属支部での受講ができない場合は、他支部で受講することができます。受講地変更をされる場合は、開催日の1ヶ月前に不審菴事務所へハガキにてお申し出ください。受講いただける場合は、開催の十日前に受講証をお送りいたします。

〈記入例〉

受講地変更希望

変更する講習会：資格者
希望地：大阪
開催日：11／10
所属支部・会員番号：京都1234
氏名：北山美子
住所　〒603-0072
京都市上京区百々町536
電話番号：075-432-2195

教授者講習会

日　付　令和八年二月十四日(土)・十五日(日)
受　付　午前九時～
開　講　午前十時～午後三時予定
会　場　九州茶道館
家元講師　木村　雅基　宗匠
教　本　「風炉」
実　技　「炭点前、続薄茶」
問合せ先　表千家同門会福岡県支部
電話〇九二―七一一―一六〇三

受講地変更について

日程等の都合で所属支部での受講ができない場合は、他支部で受講することができます。受講地変更をされる場合は、開催日の1ヶ月前に不審菴事務所へハガキにてお申し出ください。受講いただける場合は、開催の十日前に受講証をお送りいたします。

〈記入例〉

受講地変更希望

変更する講習会：教授者
希望地：大阪
開催日：11／10
所属支部・会員番号：京都1234
氏名：北山美子
住所　〒603-0072
京都市上京区百々町536
電話番号：075-432-2195

「表千家教授」の方の再受講について

今年度より、再受講を再開いたします。すでに五課目を修了されている「表千家教授」の方は、再受講(受講地変更は不可)いただけます。再受講を希望される場合は、開催日の二ヶ月前に不審菴事務局までハガキにてお申し出ください。開催日の二週間前を目安に再受講証をお送りいたします。ただし、定員をこえた場合は抽選となりますのでご了承ください。

〈記入例〉

教授者講習会
再受講希望

所属支部：京都
開催日：9／10
所属支部・会員番号：京都1234
氏名：北山美子
住所　〒603-0072
京都市上京区百々町536
電話番号：075-432-2195

『教授者講習会講座用教本』(平成十一年改版)について

教授者講習会の受講資格をお持ちの方と五課目を修了した方で、ご入用の方は北山会館書籍頒布係(電話075―724―8000)までお申し出ください。2,200円(別途送料)にて頒布いたします。

茶の湯文化にふれる市民講座　ご案内

福岡・筑豊・筑後地区

茶の湯文化を広く皆様に親しんでいただけるように、
毎夏開催しております市民講座。
今年は、熊倉功夫氏をお迎えいたします。
皆様のお越しをお待ちしております。

講師
熊倉 功夫 氏（MIHO MUSEUM館長）

演題
『利休を主人公にした小説と映画』

令和7年7月27日（日）

パピヨン24ガスホール
福岡市博多区千代1-17-1
Tel:092-633-2222
地下鉄「千代県庁口」貝塚線・4番出口直結

講演会参加費：2,000円
（呈茶を含む）

今年度より有料と
させていただきます

【ビデオ上映】 10:30～12:30
【　呈　茶　】 11:30～12:30
【　講　演　】 13:30～15:00

熊倉 功夫 氏

1943年東京生まれ
東京教育大学文学部日本史学科卒業
同大学院博士課程修了
日本文化史専攻
文学博士
京都大学人文科学研究所講師、筑波大学歴史人類学系教授、国立民族学博物館教授、林原美術館館長、静岡文化芸術大学学長を経て、現在、MIHO MUSEUM館長。茶道史、寛永文化、日本料理文化史など幅広く研究。著書に『茶の湯の歴史』『後水尾院』『日本料理の歴史』『現代語訳 南方録』『熊倉功夫著作集』（全七巻）など。

清雅会関連茶会

◆若葉の茶会

若葉の茶会を左記の通り開催いたします。お誘い合わせの上ご参会ください。

日　時　令和七年五月十八日(日)
受　付　午前九時三十分～午後二時
会　場　ホテルクリオコート博多 五階
茶　券　二千五百円(薄茶二席)
問合せ先　清雅会係
　電話〇九二－五六六－八五八六

◆茶筅供養の茶会

茶筅供養の茶会を左記の通り開催いたします。お誘い合わせの上ご参会ください。

日　時　令和七年十二月十四日(日)
受　付　午前九時三十分～午後二時
会　場　大濠公園内日本庭園
茶　券　二千五百円(薄茶二席)
問合せ先　清雅会係
　電話〇九二－五六六－八五八六

市民大茶会 席主希望者の募集について

毎年十一月三日(文化の日)に開催される、福岡市茶道文化連盟主催の「福岡市民大茶会」でお席を持って頂ける同門会員の方を募集いたします。

ご希望の方は支部事務所までご連絡下さい。応募者多数の場合、抽選とさせてきます。予めご了承の程よろしくお願い申し上げます。

問合せ先　表千家同門会福岡県支部
　電話〇九二－七一一－一六〇三

支部関連茶会の 席主希望者の募集について

福岡市茶道文化連盟、福岡県文化団体連合会、等の定例茶会(例えば、大濠公園日本庭園での月例茶会)で席を持って頂ける同門会所属の方を募集致します。ご希望の方は支部事務所まで御連絡下さいませ。応募者多数の場合抽選とさせて頂くこともあります。

同友会関連茶会

◆本部研修茶会

日　時　令和七年七月二十日(日)
受　付　午前九時～午後二時
会　場　パドドゥ・ル・コトブキ
　濃茶、薄茶(立礼)、点心
茶　券　七千五百円
問合せ先　月原 万夫
電　話　〇九四八－二三－二六六二

◆福岡地区月見茶会

日　時　令和七年十月五日(日)
受　付　午前九時～午後二時
会　場　とり市　濃茶、薄茶(立礼)、点心
茶　券　七千五百円

令和七年九月一日までに、申し込み代表者名、住所、電話番号、必要枚数、及び参加者名記入の上、葉書を用いてお申し込みください。令和七年九月十日以降に茶券及び振込用紙を送ります。

申込先　〒八一四－〇一四三
　福岡市城南区南片江四－五－七
　永島 徹 宛

◆筑豊地区聴松会茶会

日　時　十二月七日(日)
受　付　午前十時～午後二時
会　場　直方歳時館 濃茶 薄茶(立礼)
茶　券　千二百円
問合せ先　月原 万夫
電　話　〇九四八－二三－二六六二

訃報

渡辺昭子様　松田徳子様
永川マツ子様　角藤和子様
池田和子様　岡　利佳様
安村静代様　田中悦子様
谷崎昭子様

謹んでご冥福をお祈り申し上げます